

ICメルマガ（国際委員会メールマガジン）

国際学術会議「観光研究における現代の課題」（ハノイ）の参加報告

立教大学 観光学部
杜 国慶

国際学術会議「観光研究における現代の課題」（Contemporary Issues in Tourism Research）は、ベトナム国家大学ハノイ・社会科学人文科学大学観光学部が主催し、立教大学（日本）とダーバン工科大学（南アフリカ）の共催で2025年10月17～18日に、ベトナム国家大学ハノイで行われました。ベトナム国家大学ハノイ・社会科学人文科学大学観光学部は1995年に設立され、本会議は学部設立30周年の主な行事として開催されました。

世界の観光が急速に進化している今日に、観光の持続的な発展において技術の進歩と規制の変化、観光者行動、観光学の研究・教育など様々な課題が現れています。本会議は、このような課題に直面し、観光のイノベーションと傾向について学術議論の場を設け、研究者、教育者、経営者の間で学術交流と経験を共有することを目的としています。

初日の10月17日は、午前に会議メインセッションを行い、大学や研究機関、旅行業、ホテル、レストランなど観光に関わる様々な分野から200余人が参加しました。学術的な基調講演に加えて、ベトナム国家観光局とアゼルバイジャン大使、スリランカ大使、日本JNTOベトナム事務所が参加し、ディスカッション・セッションで意見を交わし、産学官連携が図れました。午後、観光開発とその影響（Tourism Development and Its Impacts）、観光目的地マネジメント（Tourism Destination Management）、観光におけるデジタル変容と社会経済影響（Digital Transformation in Tourism and Socio-Economic Impacts）の3つのセッションに分けて、研究発表と質疑応答を通して、交流を深めました。

本会議の重要な成果のプロシーディングは、「観光学：現代の課題」、「持続可能な観光とその多様な形態」、「観光におけるデジタル変容とイノベーション」、「観光目的地マネジメント」、「観光と社会経済的関心」の5部に分けて、査読を通したベトナム、日本、スリランカ、インド、ナイジェリア、南アフリカからの論文59篇を収めています。



写真1 メインセッション会場の様子



写真2 前学部長Pham Hong Longの基調講演



写真3 デスカッション・セッションの意見交換



写真4 第3セッションの口頭発表